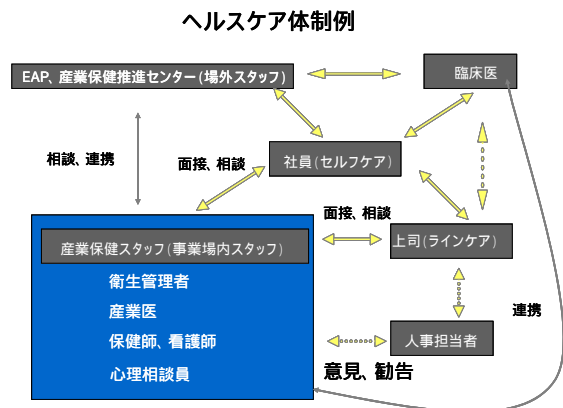


平成23年度第2回 人事制度研究会
職場のメンタルヘルス対策を進めるために

講師：神奈川産業保健推進センター 相談員 丹野 優次 氏（富士ゼロックス株式会社 産業医）

メンタルヘルスはリスクマネジメント等の面でもはや重大な課題。何から手をつければ良いかわからない場合、まずはキーマンを作る。同時にキーマンを支える右記例のような体制づくりの2つが重要になる。事業内メンタルヘルス推進担当者は医療知識や個人情報管理の点で医療関係者が望ましいが、本当のキーマンは管理監督者。そのため管理監督者向け教育（ラインケア）は特に重要になる。各事業場の現状把握と分析を行う際は、セルフケア・ラインケアに関する教育・研修から始めてみるのも手。教育を受けることで、問題が浮き彫りになる可能性がある。問題が生じた時、また管理監督者が部下のいつもと違うことを感じ声掛けをして病気と疑った時も、体制ができていなければ次のステップに移れない。マネジメントとして部下の普段の状態把握が必要で、日常の職場環境の快適さを作ることも重要な仕事である。



場当たりの対応にならないよう就業規則の変更に踏み込むことも必要。体制や制度があれば個別の対応にらず負荷も減らせる。各事業所で制度が異なる事もケース毎の対応になり、場合によりリスク要因になりかねない。継続性があり普遍的な全社統一の体制が望ましい。

(文責 事務局)